

## 兄弟姉妹で新潟県・花の山へ



写真上 雪割り草と呼ばれるオオミスミソウ  
花の色、大きさ、紋様の変化が著しい

角田浜からは灯台コースを登ることにした。一昨年5月にこのコースを一人で歩いた時、カタクリ、雪割り草はその花期をすでに終えていたが、5月なりの花が幾種も姿を見せていて、その多様さに感心しながら見てまわったのだ。ところがこの時期花の種類は少なかった。それでもカタクリ、キクザキイチゲ、オオミスミソウなどが蕾を大きく膨らませており、日本海からの風の冷たさの割には大地の温もりが感じられる情景であった。

角田山頂上で昼食を済ませて、桜尾根コースを下った。このコースは雪割り草がいっぱい。この花は花卉の色が多様であるばかりか、花の大きさ、おしべや雌しべの色の違いなど、その多彩さには驚嘆するばかりである。

斜面に点々と、或いは一面に咲く小さい花たちに眼を奪われて、ともすれば転びそうになりながら、急坂を下る。

主役はオオミスミソウだが、その中に点在するエンレイソウ（ユリ科）の可愛さ、ナニワズの鮮やかな黄色なども見逃せない。カタクリも風に揺れている。

3月下旬、兄弟姉妹5人と姪1人の6人で新潟の花の山をたずねた。

東京から車で現地入りする弟以外の5人が大阪発の夜行バスに乗り込んだのは3月22日夜9時半。新潟駅前着が翌23日朝7時前だった。駅前でレンタカー1台を借りて2台に分乗。一路角田山めざして車を走らせた。

天気予報ではこの日は雪となっていたせいか、角田浜の駐車場には先着の車1台があるのみ、濡れるか、濡れないかの小雨の中、弟がアンデストレッキングでも使ったという大テントを手早く張り、その中で賑やかな朝食が始まった。



写真上 エンレイソウ



写真上 ナニワズ  
(ジンチョウゲ科)

宿舎は**岩室温泉**の富士屋。きれいなホテルだった。

24日は弥彦山に登った。八枚沢登山口にも先客は一台だけ。早速**コシノコバイモ**（ユリ科バイモ属）に出会う。昨年咲いていた場所に4株もが花を吊り下げている。

**妻戸尾根**からはずれて**雨乞山**からの尾根に取り付く。尾根への急坂の**カタクリ**はまだほとんど蕾だが、尾根に上ると少しずつ花卉を開いている。左に日本海を眺め、点在する花を楽しみながら登る。やがて**西正寺**からの裏参道と合流、深い残雪の道を進む。

**弥彦山頂**からはもやにぼかされつつも**信濃川**を軸にひろがる平野が見渡せた。

下りは**妻戸尾根**を辿った。期待に背かぬ花のオンパレード。写真を撮り続ける姉らに合わせて超スローの歩み。

**雪割草**もすごかったが**カタクリ**も花卉を反り返らせて斜面に群れ、いいアングルで被写体となってくれた。

**シロキツネノサカズキ**という変わったきのこに出会う。

帰路立寄った**弥彦神社**の境内には大きな**タブノキ**があり懐かしく仰いだ。子どもの頃この木はカブトムシやクワガタムシの群がる「虫捕りの木」だったのだ。

25日は朝から雨だった。雨具を着け、傘をさして登るつもりだったが、「雨の登山はいや」との声に押されて、26日の予定と入れ替え、長岡市まで南下して「**えちご雪割草街道**」を訪ねることとなった。

**大崎雪割草の里**は里の人達に大切にされているのは分かったが、園としてはこれからの感じ。良かったのは**雪国植物園**、「外来植物、園芸植物を一切いれず、あくまで自然植生にこだわった」と謳うだけに広い園地に種々の植物が見られた。**ミズバショウ**、**ザゼンソウ**、**ショウジョウバカマ**などが見頃となっていた。湿原の水溜りにはサンショウウオのだろうか、白い大きな卵塊がいくつもゆれていた。

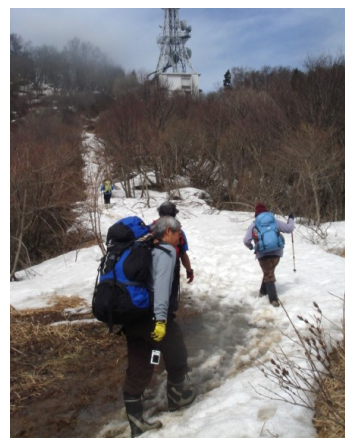
この日の宿は**蓬平**（**モギヒラ**）**温泉和泉屋**。カーナビに従って走る車はどんどん山並みに入っていく。周囲はいつの間にか雪景色に変わり、そのうち雪までがちらついてきた。「どんな宿なのか？」と心配になった頃、やっと着いた。立派な大きなホテルで温泉も良かった。



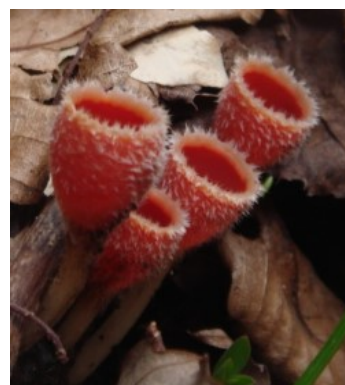
カタクリ



コシノコバイモ



弥彦頂上への道



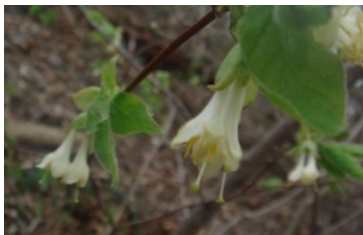
シロキツネノサカズキ



ミズバショウ



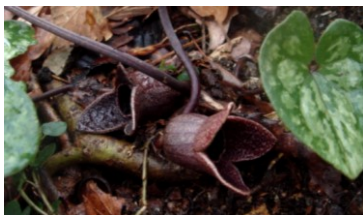
キクバオウレン



上 アラゲヒョウタンボク



上ザゼンソウ下コシノカンアオイ



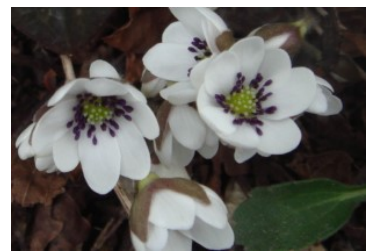
27日は再び燕市に戻り、良寛さんの寺として有名な国上寺の駐車場から国上(カミ)山を目指した。国上寺は越後最古の名刹とされ、貫禄十分の本堂などが緑の中にどっしりと構えている。

登りは稚児道と呼ばれる回り道のコースを歩く。車道の下をトンネルでくぐったりする路でカタクリ、キクザキイチリンソウなどもあるが、特にキクバオウレン、シヨウジョウバカマが多い。

頂上でシートを敷いて昼食をとる。晴天なら素晴らしい展望なのだが、どんよりと垂れ下がる雲が視界をせばめている。山頂から国上寺めざして下るが、林床斜面を覆うキクバオウレンの群落が見事。

温泉で汗を流し、新潟駅前で夕食をゆっくりと食べるが、22時過ぎのバス発車までの時間が長い。75歳の長姉に夜行バスの往復を強いたのを少しばかり反省する。

### 下の6枚の写真はいずれも雪割草



以上 114号